

「米で最も聡明な男」：グローバル・エリートの狙う不妊 ワクチン計画

By Adan Salazar

June 18, 2021

<https://www.infowars.com/posts/smarter-man-in-america-breaks-down-global-elites-vaccine-sterilization-agenda/>

195-210 の天才的 IQ レベルといわれる Christopher Langan が、邪悪なワクチン計画を説明する。

「これがどういう結果になるかは、すぐわかる。決して良い結果にはならない。」

世界で最も聡明な人間の一人が、Covid-19 注射に反対する発言をし、「ワクチン」運動の背後のグローバル・エリートは、人類のためを考えたりしないと主張した。

ほとんどの人々は、ミズーリの牧場主、クリストファー・ランガン、69 歳、20 年近く建築現場で働き、バーの用心棒をしていた人物のことを、大した男でないと思っているだろう。

しかし、ある 1999 年の Esquire の記事は、ランガンに注目させ、彼を、当時の「アメリカで最も頭の良い人物」、ほぼ 200 の IQ を持つ男と紹介した。

それ以来、ランガンは、ABC ニュースショーの「20/20」に出演し、彼の聡明さは、ただならぬ過去を持っているとして、広く喧伝された。

現在、彼は、「宇宙認知理論モデル」(CTMU) というプロジェクトで活動しており、これは「心と現実の繋がり」を、ピンポイントで当てる試みで、数学によって神の存在を説明できるものである。

この「宇宙認知理論」に献身する、あるフェイスブックの中で、先週、ランガンは、天才だけに可能なやり方で、Covid-19 ワクチン接種のグローバルな運動を、叩きのめした

ランガンによれば、グローバル・エリートは、直ちに人を間引く（cull）ものではないが、大衆を愚民化し、支配階級として優越性を確保するために、少しずつ人々を不妊化する狙いだという。

「人間の大量死というものは、トラウマとなって、現状を脅かすことになるだろう」とランドンは言った。「もし人間の大部分が破壊されて、経済がその後を追うようなことになれば、エリートたちには何も残らないだろう。本来の優越性も元々なく、適応することもなくなり、自分たちを保護し、その生き残りを助けさせる方法もなくなるだろう。したがって彼らは、集団不妊化と漸次的な（しかし急速な）人口の削減を選ぶことになる。」

「人類を向上させるのではなく、彼らは、その質を低下させようとする。彼らはそのために、公衆の無知と、相互信頼の喪失と、行き場のない思考やイデオロギーを、植え付けようとする。それは無神論であり、唯物論であり、共産主義、多文化主義、さらには強制された倫理的「多様性」、暴君的「グローバル・ガバナンス」といった、人間どもを従わせるための工夫である」と、ランガンは書いている。

ランガンは結論して、もし誰かが、彼を強制してワクチンを受けさせようとするなら、肉体的に攻撃するだろうと言い、「これは誰でも、まともな、自尊心を持つ人なら、同じであるべきだ」とつけ加えた。

先週、別の会話で、ランガンは、なぜグローバリストは、人間が増殖することを抑えようとするのかについて補足した。

「忘れてならない——彼らエリートは、自分自身を、遺伝的に最上の種族だと考えていて、他の者はすべて遺伝的に劣ったクズであり、したがって究極的に、自分たちのマインドコントロールの技術に、かかりやすいと考えているのだ」と、ランガンは書いている。

「エリートの世界観では、エリートだけが〈エリート〉なのだ。他の者たちはすべてクズどもで、処分できる者たちだ。」

ランガンの、CTMUグループ・メンバーとの討論を、フェイスブックのスクリーンショットから、下に書き写したので、お読み願いたい：——。

コメント：「私は、V@x の背後には邪悪な動機があるのではないかと、ずっと思っていた。もし私が、サイコソシオパスの寡頭政治家で、人類は、地球を保護するために、大幅に削減しなければならないと考えたとしたら、私は、大衆が死に絶えるように、ワクチンを使

うだろうか？ それとも大量不妊化を試みるだろうか？ どちらのアプローチも巨大な問題を引き起こすとは言え、集団不妊化の方が、混乱はより少ないのではないだろうか？

反応：まず、通常の「ワクチン」の定義によれば、現在行われている注射は、「ワクチン」ではない。それらは、危険なテクノロジーのもう一つの種類で、寄生する支配階級が、グローバルな制覇と支配を目指して、資金を出し利用しているものだ。

もちろん、寄生する支配階級は、過剰な人口によって破壊されつつある環境に悩んでいる。不幸なことに、それは当たっているのだ。すなわち地球とその資源は有限だが、人口の増殖は指数関数的だ。しかし、彼らのアプローチには、少なくとも3つの大きな問題がある。

(1) 正しい方法で人口コントロールに立ち向かうのでなく、すなわち教育や遺伝衛生を通じて人々を向上させ、人間にとって何が最上かを説くのでなく、また自分自身と地球の善のために、自分の生産的な振舞いをコントロールすることを教えるのでなく、彼らはウソをつき、他人の背後でこそこそ動き、詐欺を働き、人々のためであるかのように、我々を脅迫して「ワクチン接種」を強制している。ここに、彼らの特徴である、ロゴスの無視が見えてくる。

(2) グローバル・エリートは、人口を含めて、この惑星の全面的コントロールを、必死に求めながら、知性をもたず、善と呼べるような道徳ももたず、それを正しく使って人類のため、惑星全体のために役立てようとする、考えを全く持っていない。

(3) このことは、彼らのコントロール計画が、量のコントロールに限られていて、質のコントロールを、全面的に排除していることに現れている。彼らは、人類の真の遺伝的な富が、それ自体の中に内在していると考えている——天才とか、道徳的正しさというものが、目に見えて欠けているのだ。彼らは、「社会ダーウィニズム」と呼ばれる古びた思想に合意して、自分以外の者はすべて、その人がどれほど優れていようと、また自分より賢かろうと、自分より劣っており、処分してよい者と考えている。つまり彼らは間引くべき者、不妊化すべき者、または下層の者、根絶すべき者、そしてエリートの都合のために、膨大な褐色の奴隷人種として分類すべき者にすぎない。

要するに、自分たちのポケットを膨らませ、自分たち以外のあらゆる者を小突き回すことで、エリートは、自分を「主人種族」と考えている。それは一種のグローバルな家畜飼育連合で、その種族以外の者たちは従順な家畜であり、命令に従うように訓練され、かろうじてそのための知恵を与えられている。この思想が、はっきりと反論の余地なく記録されているのは、例えば、一世紀前に R. N. Coudenhove-Kalergi によって描かれた「ホワイト・ジェノサイド」計画である。それは元々、ロスチャイルド、ウォーバーク (Warburgs)

一族などの、国際的銀行業者の資金によるもので、現在も西洋世界を通じて、国際的政策として継続している。

それがこの先どうなるかは、すぐわかることで、それはどんな良いことにも繋がらない。個人的には私は、もし必要なら、私にこうした注射を強制しようとする者には、誰だろうと、厳しい肉体的な罰を与えたい。そして同じことが、誰だろうと、まともな自尊心をもつ者には起こらねばならない。

Q:「なぜ、グローバルな農場経営者たちは、彼らの最も従順でおとなしい家来たちを殺したがるのか、また、子どもを産む能力を奪おうとするのか？」

A:「あなたはよく理解できないかもしれないが、〈ワクチン〉に抵抗するならば、エリートは、あなたを殺した方がよい者として、したがって、「鉛のワクチン接種」の候補者として選び出すだろう」(ウィンクした顔の絵文字)。

その上、彼らは、あらゆる者に〈ワクチン〉を強制できると考えている。だからそれは、どちらを選ぶかだ。今、それを打ったとしよう。するとあなたは、化学的サイボーグとして、ゾンビ化と奴隷化の候補となる。打たないことにしたとしよう。するとあなたは間引き(culling)の候補となる。〈ワクチン〉はもう必要でない。「価値のある」奴隷で直ちに死ぬ者は誰でも、受け入れ可能な、付随的損害である。その上、どんな死でも、それは人口削減アジェンダに奉仕する。(こうしたコントロール・マニアは、自分たちのあらゆる動きを計算していることを、忘れてはならない——「頭を得て、尻尾を失う」という価値観だ。たとえ彼らが、何がどうなっているのかわからないときでも、それが彼らの第一の政策基準である。)・・・

[訳者 Greatchain より]

この記事は、繰り返しのために、順序が入れ替わっているところが多いので、そのつもりでお読みいただきたい。これを日本政府や厚生省関係の方々には、ぜひ参考にしてください。ようお願いします。「ワクチン」接種を受けても、別に変わったことはなかったという人も、ひそかに**不妊**処置を受けていると考えねばならない。しかし昨日(6/21)の政府厚生省自身による、読売新聞記事によれば、女性の不妊と生理痛・月経痛が、今、大きな課題になっていると言っている。政府は、これと「ワクチン」の関係を疑ってみるということはないのか？ そんなことは論外なのか???

世界的に見て「ワクチン」の一番の被害者が女性であることは間違いない。米政府の厚生機関である FDA が、子どもを対象にした「ワクチン」実験で明らかになった 86%の有害反応で、<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210530.pdf> 44%の「活動に支障がある」とされた痛みも、生理痛（の走り）ではなかろうか？（幼女の出血さえ報告されている。）また、これも英国政府の機関、MHRA への質問状に記載されている、ダントツの大量の死亡者の病因は「出血、血栓症、虚血症など」で、これも女性主体に違いない。

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/210616.pdf>

もし日本政府が、そんなことを調査する気はないというなら、現在、苦しんでおられる女性の方々が自分で立ち上がり、声をあげるべきである。この啓蒙記事で、その恐ろしい正体を明かされている者たちは本物であり、陰謀論などではない。この通りのことが世界中で起こっている。だから無視したり疑ったりしないように願います。しかし彼らには、ここに言われている、根本的な悪人としての欠点があり（バイデンを見よ）、恐れることなく、勇気をもって戦わなければならない。これはもちろん女性だけの問題ではない。

参考文献：「イルミナティ理解のために」

<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/160213.pdf>

以下、Covid ワクチンの恐ろしい害悪の、新しく現れた、専門家による多数の証言：

<https://www.infowars.com/posts/left-triggered-nba-legend-john-stockton-to-appear-in-documentary-questioning-covid-vaccines/>

<https://www.infowars.com/posts/wow-pro-vax-dr-says-covid-vaccines-can-insert-nanoparticles-into-the-brain/>